

冷害, 農業経済に

大きく影響

—55年度農業観測修正見通し—

農林水産大臣官房調査課

高橋善一

農林水産省は昨年12月に、昭和55年度農業観測修正見通しを公表した。以下は、この概要を中心に、その後の経過をとりまとめたものである。

1. 農業生産

55年度の農業生産は、耕種および繭の生産が、天候不順の影響によりかなりの程度減少するのに加え、畜産生産が更に増勢鈍化して、わずかな増加にとどまるものとみられることから、全体では、前年度に比べ6%程度減少するものと見通される。なお、米を除く農業生産は、前年度並みと見込まれる。

(耕種生産)

米は転作等実施面積の増加、天候不順による作柄の著しい低下から、前年度に比べ18.5%の減少となった。その他、主要作物では、麦、てんさい、茶などが増加したほか、前年不作であったりんご、秋冬野菜の増加が見込まれるが、裏年にあたるみかんが大幅に減少するとみられるのをはじめ、他の作物も、総じて不順な天候の影響を受けて減少したことから、耕種生産総合では、前年度に比べ10%程度減少すると見込まれる。

なお、7月中旬以降の低温、日照不足等の天候不順は気象状況に左右される耕種生産に重大な影響を与えた。水稲の作柄は全国的に低下し、全国平均で作況指数87の「著しい不良」となり、また、野菜、果樹等にも被害が発生した。この冷害による農作物の被害見込金額は約6,919億円にのぼり、北海道、東北でその61%を占めている。

(畜産生産)

牛肉生産は引き続きわずかな減少、豚肉も前年度の伸びを大きく下回るわずかな増加にとどまると見込まれ、また、プロイラーはわずかないし、やや増加、牛乳はほぼ前年度並み、鶏卵もわずかな増加とみられ、総じて引き続き伸び率が鈍化し、畜産生産総合では前年度に比べわずかな増加にとどまるものと見込まれる。

2. 農産物価格

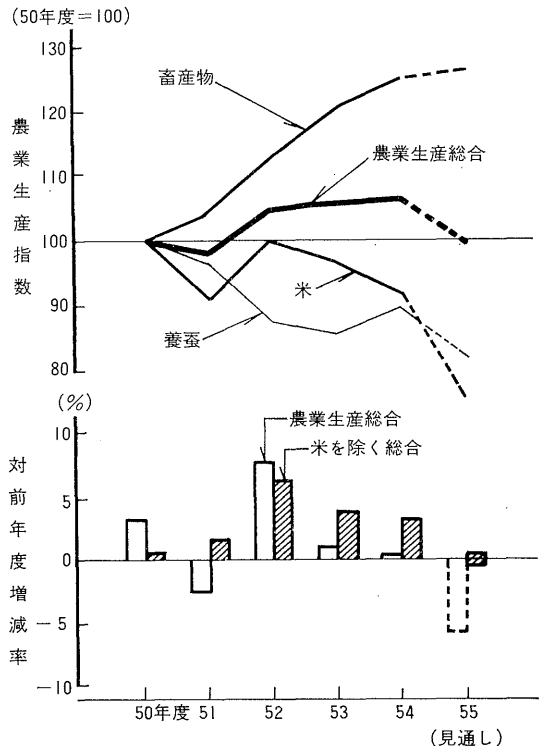
55年度に入ってから農産物価格は、4～6月期に前年同期比1.8%上昇のあと、7～9月期には、同4.8%の上昇となり、上期を通じては同3.3%の上昇と、小幅な上昇にとどまった。下期についてみると、以下のとおりである。

(畜産物)

牛肉は前年同期を下回り、豚肉、プロイラーは上回って推移し、生乳、鶏卵はほぼ前年同期並みとなり、全体では、前年同期をやや上回るとみられる。

(果実・野菜)

農業生産の動向



昭和55年度農業観測修正見通し総括表

果実について、みかんは大幅に、前年を下回るとみられるが、りんごはかなり大きく下回るとみられる。

	対前年度増減(△)率(%)		55年度見通し(前年度対比)	
	53年度	54	当 初	修 正
実質飲食費支出	2.5	2.5~3程度	2.5~3%程度の増加	2%程度の増加
農 業 生 産	1.1	0.2	ほぼ前年度並み	6%程度の減少
農 産 物 価 格	4.3	4.1	前年度をわずかに上回る	前年度をやや上回る
農業生産資材価格	△ 2.5	5.8	前年度をかなりの程度上回る	前年度をかなり上回る

野菜は、高値であった前年を大幅に下回ると見通される。

(行政価格)

麦の政府買入価格が平均7.9%引き上げられたほか、大豆の基準価格等も引上げとなったものの、加工原料乳の保証価格は据え置かれ、米の政府買入価格も2.3%の引上げとなるなど、総じて小幅な上昇にとどまった。

以上から、55年度の農産物生産者価格は、耕種生産がかなりの程度減少するとみられるものの、総じてみれば需給はなお緩和基調にあること等を反映して、前年度に比べ、やや上昇にとどまるものと見通される。

3. 農業資材価格

54年度の農業生産資材価格は、原油価格の上昇、円安、一般卸売物価の上昇等の影響から、年度中における上昇は、かなり大きなものとなった。55年度に入ってから卸売物価が落ち着いて推移していること等から、前年同期比で、4~6月期14.6%高(前期比3.6%高)、7~9月期12.2%高(同1.6%高)と、次第に騰勢は鈍化しているものの、上期を通じては前年同期比13.4%高となった。この間、7月に肥料は15.4%、農業機械は平均4.5%それぞれ値上げされた。

下期については、①飼料は、海外飼料穀物価格が上昇したことから、配合飼料が56年1月から12.8%値上げされたこと、②肥料は、おおむね上期後半の水準で推移するとみられること、③農業機械は、安定的に推移するとみられること、④農業は、基礎化学薬品価格の上昇等から、12月に5.2%値上げされたこと。⑤その他の資材は安定的に推移するとみられること等からみて、全体としては上期に比べ、騰勢は弱まるものと見通される。

以上から、55年度を通じては、54年度中における上昇が、かなり大きなものであったため、前年度をかなり上回ることとなる。

4. 農家経済

農家経済について、55年度上期の収支としてみれば、農業所得が農業経営費の増加などにより、前年同期を下回って推移し、農外所得がほぼ前年度並みの伸びとなったことなどから、農家総所得では、前年同期比3.5%の増加にとどまった。

年度間を通じては、農業経営費がかなりの程度の増当と見込まれる半面、農業粗収益は、冷害の影響による耕種生産の減少などから伸びが期待できないものと見込まれ、全国1戸当たり平均でみた農業所得は、前年度をかなり下回るものと見通されるが、農業共済金が支払われること等を考慮してみれば、前年度をやや下回るものと見込まれる。

農外所得については、農業所得の減少を、農外就業で補おうとする農家の対応が、今後強まるとみられることなどからみて、年度間では、前年度の伸びを上回るものとなる。

農家総所得ではほぼ前年度並みの伸びと見込まれる。

5. その後の経過

農業生産については、秋冬野菜は、大幅に減少した前年を上回っているものの、寒波等の影響がみられた。畜産生産は、牛肉が枝肉重量の増加から、前年を上回って推移し、肉豚は下期に入り減少に転じた。

農産物価格については、秋冬野菜は、高騰した前年を下回って推移しているものの、寒波等の影響から、価格水準は高いものとなっている。

農家経済については、農外所得は下期に入っても伸びをやや高めている。特に、農業所得の減少が大きい北海道、東北、九州はその傾向が強い。

あとかき 今年、これまでとは打って違って冬将軍の威力は、なかなかすばらしいものがあり、降雪量も去る38年以降の記録だそうです。しかし、さすがに立春を過ぎると争えないもので、その頃の日差しは、すっかり春の訪れを感じさせます。が、頑強な冬将軍が退却する頃になると、今度は雪解けによる水害の頻発が心配になります。皆様のご活躍をお祈り致します。

3月号をお送り致します。予定していたものが入らず、編集子はいささか面はゆい感じを禁じ得ませんが、この点は平素のご好誼にあまえ、よろしくお願い致します。(K生)